

## 水 稲

### 1. 作付の概況

九州における平成20年度の水稲作付面積（青刈り面積除く）は、19万600haで、前年に比べて5,300ha（3%）減少した。これは、他作物への転換などが増加したためである。品種毎の作付状況を見ると、ヒノヒカリの割合が最も多く、長崎県を除く九州の作付品種の53%（前年は54%）であり、次いでコシヒカリ13%（前年は14%）で、両品種で66%（前年は68%）の作付面積をしめている（いずれの品種割合とも、長崎県のデータは除く）。

### 2. 作柄の概況

九州における平成20年産水稲の収穫量は、96万8,700tで、前年に比べて3万2,500t(3%)増加した。これは、作付面積は減少したものの、10a当たり収量が増加（+30kg）したためである。

九州平均の作柄は、作況指数101の「平年並み」で、10a当たり収量は508kgであった。九州沖縄の県別の作況指数は、佐賀県が98と「やや不良」であったほかは、福岡県が100、長崎県と熊本県、沖縄県が101の「平年並み」で、鹿児島県と大分県が103、宮崎県が104の「やや良」であった。

### 3. 生育の概況

#### 1) 普通期水稲

7月以降高温で日照時間も平年を上回ったことから、分けつ発生は旺盛となり、穂数が「やや多く」なった長崎、熊本、大分、宮崎及び鹿児島では、㎡当たりもみ数も「やや多く」なった。一方、穂数が「平年並み」であった福岡及び佐賀では、㎡当たり籾数は「平年並み」ないし「やや少なく」なった。遅植えの指導などにより田植時期が平年より2-3日遅くなったが、梅雨明け以降高温に推移したため、各県とも出穂期は「平年並み」となった。

出穂以降比較的高温で推移したものの、主として9月中旬以降日照不足で推移したことや、南九州を中心とした地域の一部において、秋雨前線や台風による倒伏や穂発芽等が発生したことから、登熟は九州全体としては「平年並み」であった。また、刈り取り時期については平年より「2-4日遅れ」た。

玄米品質については、1等米比率が九州全体で35%と、過去5年間の中では最も良かったものの、全国平均の80%を大きく下回った。出穂後20日間の平均気温が白未熟粒の発生温度と言われる26℃前後で経過したことも影響したと思われるが、2等以下への格下げ理由としては、充実不足が最も多く46%で、次いで心白・腹白粒24%、着色粒13%であった。

#### 2) 早期水稲

主産県の作柄は、宮崎県が10a当たり収量505kgで作況指数106、鹿児島県が同467kgで作況指数106で、ともに「良」であった。

田植え直後の3月下旬から4月上旬の低温及び4月下旬の日照不足により分けつ発生が抑制され、穂数は、「やや少なく」なった。一方、1穂籾数は、「平年並み」から「やや多く」なり、㎡あたり籾数では、宮崎県が「平年並み」で、鹿児島県では「やや少なく」なった。登熟は、出穂期以降が概ね天候に恵まれ台風の襲来もなかったことから、両県ともに「良好」となった。また、1等米比率については、50%から60%とほぼ平年並みで、落等理由はカメムシ被害によるものが大部分(75-81%)であった。

#### 4. 被害の概況

水稻の被害面積は55万2,100haあり、被害総量は9万7500tで、被害率は10.2%とここ5-6年間で最も低く、平年を2.3ポイント下回った。被害種類別に見ると、台風被害など気象災害が4.9%と平年を1.8ポイント下回り、次いで病害の3.5%で0.4ポイント小さく、カメムシなどによる虫害も1.4%で0.2ポイント下回った。作期別にみても、早期水稻、普通期水稻とも、被害は軽微であった。

(九州沖縄農業研究センター暖地温暖化研究チーム 筑後研究拠点 北川 寿)

2008年産水稻の収穫量

区分	作付 面積	10 a 当たり 収量	収穫量	作況 指数	前年との比較					
					作付面積		10a当たり収量		収穫量	
					対差	対比	対差	対比	対差	対比
(ha)	(kg)	(t)		(ha)	(%)	(kg)	(%)	(t)	(%)	
九州計	190,600	508	968,700	101	△ 5,300	97	30	106	32,500	103
福岡	39,600	501	198,400	100	△ 400	99	16	103	4,400	102
佐賀	26,900	517	139,100	98	△ 1,200	96	13	103	△ 2,500	98
長崎	14,300	480	68,600	101	△ 300	98	8	102	△ 300	100
熊本	39,700	522	207,200	101	△ 1,300	97	9	102	△ 3,100	99
大分	24,800	519	128,700	103	△ 1,100	96	26	105	1,000	101
宮崎	20,400	511	104,200	104	△ 600	97	139	137	26,100	133
鹿児島	24,900	492	122,500	103	△ 400	98	35	108	6,900	106
沖縄	1,010	313	3,160	101	△ 10	99	31	111	280	110

注) 資料：平成20年産水陸稲の収穫量（2008. 12. 09, 農林水産省大臣官房統計部）  
△は減少を示す。